

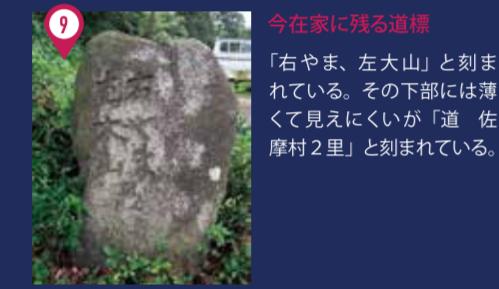
# 坊領道

ぼうりょうみち

海路を通し博労たちで賑わった参詣道

**大** 山寺から南北方向に広がる坊領道は、鳥取藩領の淀江漁港、淀江宿および御来屋宿などの地域を結ぶ主要参詣道だ。日本海に面した淀江、御来屋、大山口方面から、豪円山の西麓で尾高道と合流する。

大山町宮内の「仁王堂公園」は、大山北麓を仰ぎながら 360 度自然の大パノラマが広がる芝生公園。高さ 8.8m の大山伯耆坊(からす天狗)の像が、古くは靈山として修験道の山だった大山の歴史を物語っている。



## 大山寺まで続く道しるべとなった石仏地蔵

石仏地蔵は俗に一町仏と言って、順意成就を願った施主が寄進したもので、当時は一町(約 109m)ごとに一仏が立ち、大山寺の「零番地蔵」まで続き、参詣する旅人の道しるべとなっていた。現在でも「三十一番地蔵」から始まり、番号の読み取れない地蔵や、最も若いもので「十一番地蔵」が確認されている。大山道、大山道路の道辺には多くの地蔵が見られる。



当時の名残木大松 道標となった松の古木。



三十一番地蔵



坊領道と尾高道の合流地点の道標

「右みくりやいなば」「左よなごいも」と刻まれている。後ろには「別れ地蔵」がひかえる。

何番か読み取れない地蔵もいくつかある。



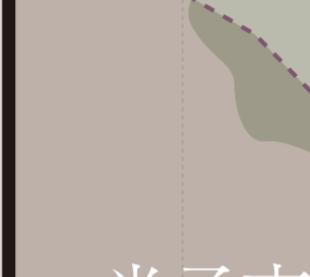
## 坊領道 MAP



万人譲(平集落)  
牛馬の供養塔。旧大山町を中心に残る。約260年前に建立された平のものが現在一番古いとされる。



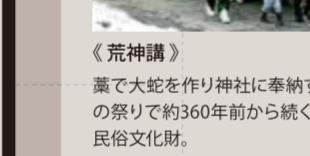
仁王堂公園内に残る道標  
廻国一千人供養塔  
廻国一千人供養塔で大山寺へ納経に訪れた廻國行者の接待が一千人に達したのを記念して造立。「右所子、左淀江」と刻まれている。昔の位置の近くに立っており、右手の所子に塗り下り道が昔の面影を残している。



今在家に残る道標



今在家に残る道標



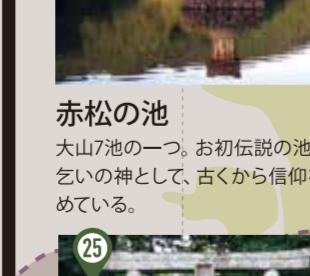
今在家に残る道標



今在家に残る道標



今在家に残る道標



今在家に残る道標



今在家に残る道標



今在家に残る道標

